茨木市立三島中学校　茨木っ子グローイングアップ計画

1　３年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	保幼小中で十八歳時点でのめざす子ども像を共通理解し、子どもの発達課題に合わせた実践を行う。	保幼小中合同授業研（庄栄小） ・それぞれの発達段階の理解 ・授業研、公開保育などへの参加 ・行事交流、授業参観 ・部活動体験　・体験授業 ・授業スタンダードの交流 ・中学校区保幼小中連携カリキュラムの活用　・給食交流会 ・中学校教員による出前授業 ・小中交流会	保幼小中合同授業研（三島小） 学力保障につながる授業作り 平成２９年度の取組みの継続・見直し	保幼小中合同授業研（三島中） 学力保障につながる授業作りの検証・改善 平成３０年度の取組みの継続・見直し 中学校区保幼小中連携カリキュラムの見直し
確かな学力の育成	互いの意見を比較・検討し、自分の考えをより深め発表できる生徒を育てる。	・「授業時の約束」（言語表現活動の到達別目標）の定着と推進 ・「学習目標」と「振り返り」の定着 ・「家庭学習」の定着 ・「指導と評価の一体化」の定着・検証 ・クラスの集団作りと結びついた教科指導「学習集団作り」の推進	・「言語表現活動」がある授業の実施 ・「授業時の約束（生徒用・教師用）の見直しと掲示（言語表現活動の到達別目標の掲示） ・「学習の手引き」の見直し・改訂 ・「指導と評価の一体化」の推進・充実 ・クラスの集団作りと結びついた教科指導「学習集団作り」の推進	・「授業時の約束」（言語表現活動の到達別目標）の検証と改善 ・「家庭学習」の検証と改善 ・「言語表現活動」を中心とした授業づくりのさらなる推進 ・「指導と評価の一体化」の推進・充実 ・クラスの集団作りと結びついた教科指導「学習集団作り」の推進 ・新学習指導要領に基づく学力向上の推進
豊かな人間性を育む	人権を大切にし、あらゆる差別に立ち向かう力を育成する。お互いの違いを認め合い、共に生きる豊かな人間関係づくりを進める。	・クラスミーティング ・学年ミーティング ・道徳教育の充実 ・あすなろ入級学活 ・あい　ま・い・み ・キャリア学習 ・人権講演会 ・キャンプ（１年） ・多文化共生（１年） ・人権ＦＷ（２年） ・職場体験（２年） ・同和教育（２年） ・修学旅行（３年） ・決意の言葉（３年）等	平成２９年度の内容の成果課題の分析・改善 ・クラスミーティング ・学年ミーティング ・道徳教育の充実 ・あすなろ入級学活 ・あい　ま・い・み ・キャリア学習 ・人権講演会 ・キャンプ（１年） ・多文化共生（１年） ・人権ＦＷ（２年） ・職場体験（２年） ・同和教育（２年） ・修学旅行（３年） ・決意の言葉（３年）等	平成３０年度の内容の成果課題の分析・改善 ・クラスミーティング ・学年ミーティング ・道徳教育の充実 ・あすなろ入級学活 ・あい　ま・い・み ・キャリア学習 ・人権講演会 ・キャンプ（１年） ・多文化共生（１年） ・人権ＦＷ（２年） ・職場体験（２年） ・同和教育（２年） ・修学旅行（３年） ・決意の言葉（３年）等
健康・体力の増進	体力向上にむけ、運動に親しむ能力を向上することにより生涯スポーツにつなげる。	・体力テストにより個の力の分析と理解 ・校内授業研の実施 ・３学年の運動内容の統一 ・教科会の実施により分析改善 ・食育の推進	平成２９年度の取組み内容の成果課題の分析・改善 ・体力テストの実施 ・教科会の実施により分析改善 ・部活動の活性化 ・食育の推進	平成３０年度の取組み内容の成果課題の分析・改善 ・体力テストの実施 ・教科会の実施により分析改善 ・部活動の活性化 ・食育の推進
支援教育の充実				

2 今年度の結果と取組みについて

（1）全国学力・学習状況調査

○●国語●○

国語Ａ

（領域ごと）

① 話すこと・聞くこと
概ね良好な結果であった。

② 書くこと
概ね良好な結果であった。

③ 読むこと
概ね良好な結果であった。

④ 言語事項
概ね良好な結果であった。

（問題形式）

① 選択式
概ね良好な結果であった。

② 短答式
概ね良好な結果であった。

（無解答率）
概ね良好な結果であった。

（その他）

正答率の低かった設問
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

国語Ｂ

（領域ごと）

① 話すこと・聞くこと
概ね良好な結果であった。

② 書くこと
概ね良好な結果であった。

③ 読むこと
概ね良好な結果であった。

④ 言語事項
良好な結果であった。

（問題形式）

① 選択式
概ね良好な結果であった。

② 記述式
概ね良好な結果であった。

（無解答率）
概ね良好な結果であった。

（その他）

正答率の低かった設問
目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く問題

分析

・全国学力・学習状況調査　国語Ａ問題に関して
文章をまとめて判断する力や目的に応じて、文の順序を考える、読み取る力は付いている。行書と楷書の区別もできている。その一方で、文脈の中における語句の意味の理解や、ことわざや慣用句などの知識は課題があると考えられる。

・全国学力・学習状況調査　国語Ｂ問題に関して
場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解することや内容の理解に関しては力が付いていると考えられる。しかし、相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く問題は無解答率も高い。記述問題に対しての苦手意識を授業の中から、取り除けるようにしていきたい。

○●数学●○

数学Ａ
（領域ごと）
① 数と式
概ね良好な結果であった

② 図形
概ね良好な結果であった

③ 関数
概ね良好な結果であった

④ 資料の活用
概ね良好な結果であった

（問題形式）
① 選択式
概ね良好な結果であった

② 短答式
概ね良好な結果であった

（無解答率）
概ね良好な結果であった

（その他）

全国平均と比べて
○正答率の低かった設問
【数と式】
・絶対値が 6 である数を表す
・「1 個 a kgの荷物 3 個と 1 個 b kgの荷物 4 個の全体の重さは 15 kg以上である」という数量の関係を表した不等式を表す

○無解答率の高かった設問
【数と式】
・連立二元一次方程式を解く
・連立二元一次方程式をつくるために着目する数量を選び、式で表す

数学B
（領域ごと）
① 数と式
概ね良好な結果であった

② 図形
概ね良好な結果であった

③ 関数
概ね良好な結果であった

④ 資料の活用
概ね良好な結果であった

（問題形式）
① 選択式
概ね良好な結果であった

② 短答式
概ね良好な結果であった

③ 記述式
概ね良好な結果であった

（無解答率）
概ね良好な結果であった

（その他）

全国平均と比べて
○正答率の低かった設問
【図形】
・平行四辺形 ABCD を正方形 ABCD に変えたときの四角形 EBFD がどのような四角形になるかを説明する

○無解答率の高かった設問
【資料の活用】
・全校生徒 300 人に対する上位 4 曲を回答した生徒数の割合を求める

分析

全体的に概ね良好な結果であった。数学Ａ・Ｂ共に全国と比べ無解答率が低い。普段の授業で、説明する時間や自分の考えを発表する時間を継続して設けていることが理由として挙げられる。

問題別で分析すると、【図形】、【関数】、【資料の活用】での正答率が高く、身近な事象と関連付けた問題も正答率が高い。また、記述問題の正答率も高く、良好な結果であった。これに対して、絶対値の問題や不等式の問題など、【数と式】の知識問題では、全国正答率と比べやや低い結果となった。このことから、分野によって正答率の差がでないように、授業の工夫が必要である。

昨年度に引き続き、今年度も無解答率が低かったことから、今後もクラスの集団作りと結びついた教科指導をすすめる。また、一人ひとりの基礎学力の充実と定着を図り、生徒一人ひとりが「わかる喜び」「できる喜び」を体感し、生き生きと参加できる授業を創造していく。

○●理科●○

（領域ごと）

①物理的領域　　概ね良好な結果であった

②化学的領域　　概ね良好な結果であった

③生物的領域　　概ね良好な結果であった

④地学的領域　　概ね良好な結果であった

（問題形式）

①選択式　　概ね良好な結果であった

②短答式　　概ね良好な結果であった

③記述式　　概ね良好な結果であった

（無解答率）　　概ね良好な結果であった

（その他）

全国平均と比べて

○正答率の低かった設問

【気象】

・コンピュータを使ったシミュレーションで台風の進路や風向を科学的に探究する場面において，日本の天気の特徴に関する知識と観測方法や記録の仕方に関する知識・技能，条件制御の知識・技能を活用することができるかどうかをみる

・太平洋高気圧（小笠原気団）の特徴についての知識を身に付けている

○無解答率の高かった設問

【光】

・光の反射を利用した「テレプロンプター」のモデルを作って科学的に探究する場面において，光の直進や反射の幾何光学的な規則性についての知識・技能を活用することができるかどうかをみる

・テレプロンプターのモデルの光の道筋を検討して改善し，適切な光の道筋を説明することができる

分析

全体的に概ね良好な結果であった。全国平均と比較すると、無解答率が低く、正答率が全国平均を上回る結果となった。身近な物事を課題とした課題解決型の授業を行うことで、自分の考えを発表する時間や班やクラスの仲間の考えを共有する機会を継続して設けていることが理由ではないかと考える。

問題別で分析すると、【電気】、【化学反応】の正答率が高く、身近な事象と関連付けた問題も正答率が高い。また、記述問題の正答率も高く、良好な結果であった。これに対して、知識を問われる問題では、全国正答率と比べやや低い結果となった。このことから、課題解決を目的とした授業づくりだけでなく、知識を活用した授業づくりをすすめていく必要がある。

以上の考察より、無解答率が低かったことから、今後もグループワークによる課題解決型の授業づくりに力を入れ、クラスの集団作りと結びついた教科指導をすすめる。また、一人ひとりの基礎学力の充実と定着を図り、生徒一人ひとりが生き生きと参加できる授業を展開していく。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

平均正答率は平成２４年度より上昇している。教科別に見ると、昨年度より、国語，数学ともに減少している。数学Ａは低学力層も増加し、平均正答率も低くなった。分析としては、ここ数年間と同様、「メロディーチャイム」により、チャイムで授業を開始できるようになったこと、言語活動の機会が多くなったことがあげられる。また、校内研修会などで、教師の一致した意識改革もあげられる。平成２５年度より無解答率が減ってきていることが、数年間の成果の一つである。授業時の約束を今後も継続する必要がある。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

ここ２年間、学力低位層が減り、学力高位層が増えている。学力低位層の生徒が最後まであきらめずに問題を解こうとする姿勢が見られる。昨年度と同様、どの教科も学力高位層の人数が学力低位層の人数を上回っていることは、ここ数年の成果である。どの教科も無解答率の減少が、学力低位層の減少につながっている。１年生時に実施している習熟度別授業など、学力低位層の生徒への学力補充の取組みが、学習意欲の高まりとなっている。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

①継続して取り組んできたこと

・「学習目標」の提示
・テスト週間、夏季休業中の学習会の実施
・「学びのステップ」の掲示
・少人数加配での、数学・英語での習熟度別授業の実施
・「学習の手引き」の改訂，配布
・「言語表現活動」のある授業の推進
・「授業時の約束」の掲示
・年３回の校内研究授業・研修会の実施
・毎朝の「朝読」の推進・定着
・週１回の教科会の実施

②新たに取り組んできたこと

平成２６年度より

・「学習の振り返り」の導入
・「授業時の約束（生徒用・教師用）」の見直しと掲示
・「学習の手引き」の見直し・改訂
・「指導と評価の一体化」にむけ、教科会の活性化

平成２７年度より

・「指導と評価の一体化」をテーマにした研究授業、研修会の年３回実施
・「授業 Standard」を意識した研究授業、研修会
・「評定の範囲」をもとに、各教科において、授業や評価の見直し、検討
・教育課程委員会において、評価に関する見直し、検討
・「テスト時の注意、テスト監督時の注意」の見直し、改訂

平成２８年度より

・「言語活動を取り入れた、クラスの集団作りと結びついた教科指導、学習集団作り」をテーマにした、研究授業、研修会の年３回実施
・「アクティブ・ラーニングの必要性」をテーマにした校内研修会の実施
・「評定の範囲」をもとに、各教科において、授業や評価の見直し、検討
・「学びのステップ」の効果的な活用

平成２９年度より

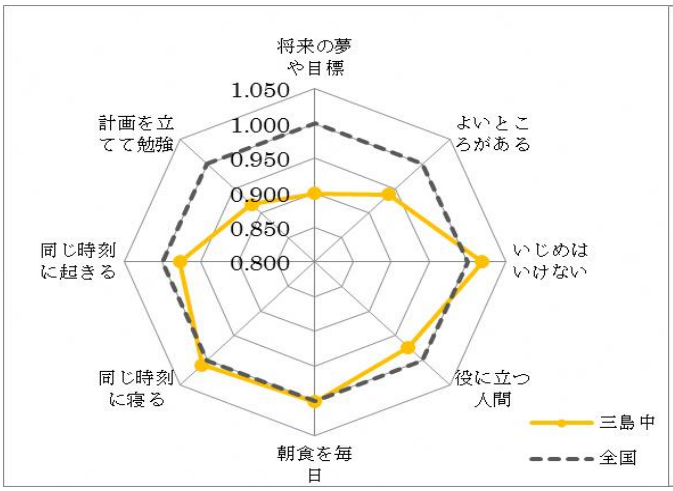
・タブレットを活用し、子どもたちが主体的に参加できる授業の研修
・道徳の校内研究授業、研修会の実施
・授業公開週間の実施

平成３０年度より

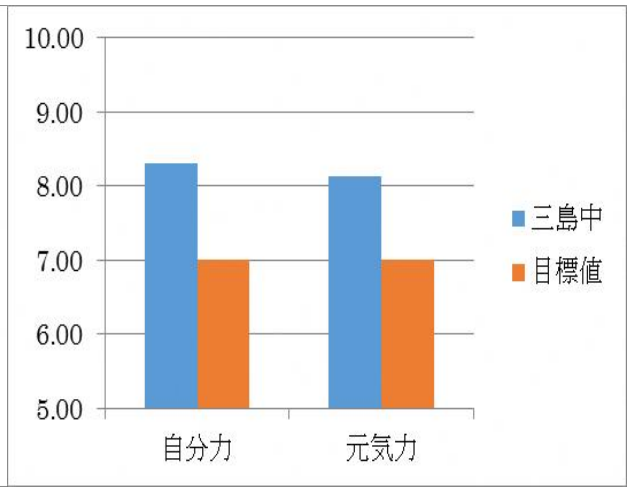
・デジタル教科書の活用
・道徳の来年度の教科化に向け、研修会を２回実施
・校内研究授業・研修会の練り上げ会の実施

○●子どもたちに育みたい力●○

５つの力　全国平均との比較



５つの力　目標値との比較



今年度は質問紙項目が大幅に変更になったため、５つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。
そのため、全国平均との比較(レーダーチャート)は８項目、目標値との比較(棒グラフ)は、３項目とも実施した『自分力』と元気力』のみとなっています。

分析

・自分力と元気力のどちらも目標値を上回る結果であった。
・「自分には、よいところがある」「将来の夢や目標を持っていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問項目は、全国と比べて課題の残る結果となり、成長を促す指導が今後も必要である。また、「家で自分で計画を立てて勉強していますか」「家で学校の授業の予習・復習をしていますか」の項目にも課題があり、家庭学習にも課題があることが分かった。
・「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の質問項目は、全国数値とほとんど同じであった。
・「学校の規則を守っていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問項目は、全国を上回る結果であった。本校での人権教育委員会や生徒指導委員会、道徳の授業の積み重ねが結果につながった。

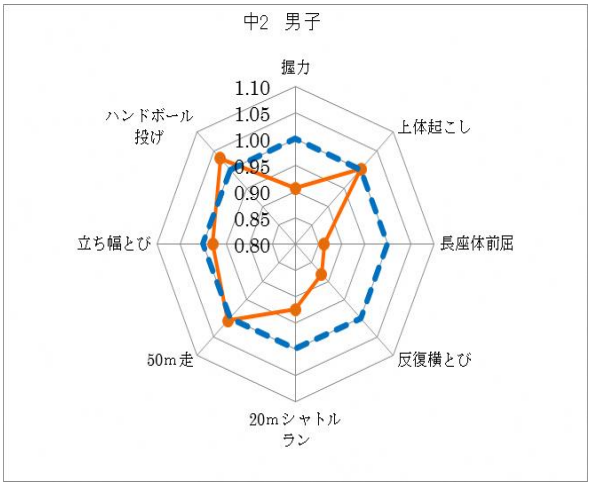
取組み

・日々の授業において、「授業時の約束」（言語表現活動の到達別目標）の検証
・毎学期の授業アンケートの分析
・朝読の推進
・「家庭学習」の検証と改善
・クラスの集団づくりと結びついた教科指導「学習集団づくり」の推進
・クラスミーティング
・道徳教育の充実
・各行事の見直しと活性化
・教科会の活性化

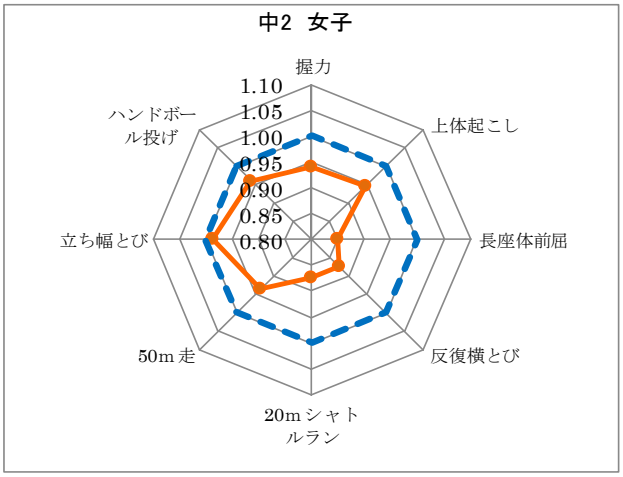
（2）全国体力・運動能力、生活習慣調査

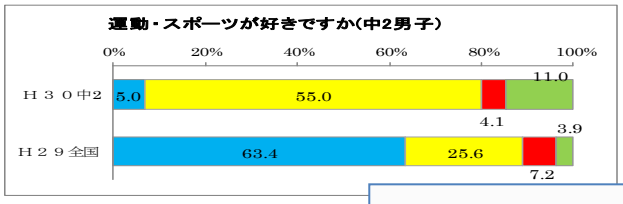
○●体力●○

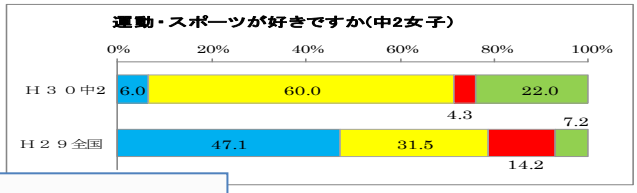
男子（中2）



女子（中2）







好き　やや好き　ややきらい　きらい

分析

・男女とも多くの分野で全国平均を下回っている傾向がみられる。年少期から外遊びが少ないことと、小学校の時期に地域のスポーツクラブ、子ども会への参加が少ないことも一つの要因と考えられる。

・男子では、上体起こし・ハンドボール投げ・50m 走で平均を少しではあるが、上回ることが出来ており去年度よりも、平均を超える種目が増えた。

・男子は握力、長座体前屈、反復横跳び、２０ｍシャトルランが全国平均を大きく下回っていることがわかる。

・女子はほぼ全ての種目で全国平均を下回っている。

・男女共通して、握力と長座体前屈、反復横跳びの課題が著しく出た。握力に関しては補強運動で強化していく必要性がある。

・今年度は、昨年度に比べて全国平均と比較した水準は広がってしまった。取り組みを強化・発展させて、全国平均を上回っていきたい。

取組み

・教科会等において、課題の検討と改善策の明確化を行う、また授業内容についての交流を行い授業に活かす。
・短期的な取組みでは、授業中での補助補強運動での筋力を上げるトレーニングの種類を増やす。
・長期的な取組みでは、３年間の計画的な体力向上の組織的な取組みを継続して進めていく。
・三島中校区内の小中連携による体力向上の取組み、検討会を進めていく。